

鳥取大学サイエンス・アカデミー

染色体研究と応用展開

染色体とは細胞の中で遺伝情報を担う生体物質であるゲノムDNAが集合したものです。鳥取大学では染色体工学研究センターを中心に医学部、農学部、工学部の関連研究者が連携して染色体研究を行っています。こうした研究の成果は遺伝子治療や再生医療、医薬品開発などに活かされると期待されています。今回は染色体工学研究センター及び医学系研究科に所属する研究者が染色体研究と医療への応用についてお話しします。

演題/ がんは遺伝子と染色体の病気

講師/ 医学系研究科 教授 久郷 裕之

日時/ 平成26年10月25日(土) 10:30~12:00

会場/ 鳥取県立図書館 2階大研修室(鳥取市尚徳町101)

図書館連携により、琴浦町図書館、日野町図書館(第4土曜日のみ)でもライブ中継による聴講ができます。

対象/ どなたでもご参加いただけます。

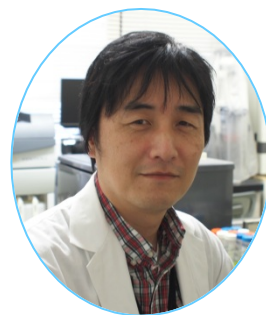
事前の申込みは不要です。

主催/ 鳥取大学 **共催/** 鳥取県立図書館

講演要旨

私

私たちの体はおよそ60兆個の細胞から成り立っています。その細胞中に存在する核と呼ばれている器官には遺伝情報(生命の設計図)が書き込まれた遺伝子が存在し、細胞分裂の際に染色体という形に折り畳まれ、遺伝子が均等に二つの細胞へ分配されます。がん細胞では、これらの遺伝子や染色体に異常が認められ、がん発症の大きな要因になっています。本講演では、がん発生のメカニズムについて新知見を加えご紹介したいと思います。



お問い合わせ先

鳥取大学 産学・地域連携推進機構(社会貢献課)

TEL 0857-31-6777

FAX 0857-31-6708

E-Mail koken@adm.tottori-u.ac.jp